

静岡松涛タイム 第72号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：置塩大三郎

連絡先：0547-35-3537(TEL&FAX)

E-mail：takkukan@lemon.plala.or.jp

県本部 HP：http://www.shizuoka-karate.com/

広報部 HP：http://plaza.across.or.jp/~cyber-ex/

■第16回全国空手道選手権大会■



平成27年7月18・19日に、第16回松涛連盟全国空手道選手権大会が国立代々木競技場第二体育館で盛大に開催されました。私は、一般3部の組手にエントリーしているので、少年たちの試合を観戦していましたが、年々選手のレベルが高くなっているので驚きました。型においては、スピードはもとより技のキレや、極めが有り感

心させられました。組手試合も相手をよく観察し、大きな飛び込や深い逆突き、蹴り技の多いのにも驚きました。今年から各都道府県別の団体戦（少年から一般）が非常に盛り上がりを見せ、静岡県は優勝した神奈川県にあと一歩及ばず負けてしまいました。あの試合は、事実上の決勝戦だと思っていますし、とても感動しました。そして一般女子の岡本沙織選手の型を見てあまりの迫力に鳥肌が立ちました。型を見て鳥肌が立ったのは、私が大学時代で今から40年前になりますが、津山先生の雲手を見たとき以来でしたので、非常に感動しました。私の試合は、残念ながら一回戦敗退でしたが、また新たな目標を持ち今は指導に、稽古に励んでいます。また来年も新たな感動と、ドラマがあることでしょう。選手の皆様、審判の先生方、ご父兄の皆様お疲れ様でした。静岡県一丸となって盛り上げていきましょう。（レポート：島田支部拓空館 小川 博）

■平成27年度夏季合宿■



平成27年8月8・9日に、夏のビッグイベント「夏季合宿」が菊川南陵高校で行われました。今年の夏は例年より暑く、選手のやる気からくる熱気と夏の暑さから来る熱気が入り交じった体育館でスタートしました。今年は

姉妹揃って全日本ナショナルチーム所属選手である染谷香予・真美選手が講師として参加して下さり、いつもと違う雰囲気の中での練習が出来たと思います。その中で全日本チームの選手から指導を受けるということは更に気持ちが高まり集中した良い練習になったと思います。私は娘と共に空手を習っています。型・組手どちらについても時々、「どうしたらいいか？」と娘に質問を受けますが、どうしても上手く教えてあげることが出来ません。その理由は、自分がいい動きが出来ないということもあり、上手く説明出来ないのです。しかし、合宿についてどうだったか聞くと、「すごくわかりやすかった！ポイントを教えてくれるから、どう動けばいいかが本当にわかりやすかった！」と、目を輝かせ、体を使い合宿の内容を話してくれました。ここ数年、日程が合わず合宿への参加が出来ていなかったのですが、今年は日程も合い本人もこのところ試合での成績に悔しい思いをしていることもあり、どうしても合宿に行きたいと懇願してきたので今年の合宿は、参加させて頂いたのですが、参加させて頂き本当に良かったと思います。違う道場の子供達と一緒に練習ができ、練習以外でも話す時間があることから友達になることもでき、更に今年は超一流選手の指導を受けることもでき、本人も本当に満足して疲れはてて帰ってきました。親としても今回の合宿に参加させて頂き本当に良かったと思います。来年も是非参加させたいと思います。同じ様に空手を習っている皆様にお勧めしたいと思います。得るものは想像以上に大きいと思います。（レポート：島田支部拓空館 鈴木美羽の母）

■平成 27 年度 8 月期昇段審査会■

| | | | | |
|--------|------------|-----------------------------|------------|------------|
| ■少年初段■ | 久保野 迅(焼 津) | 大塚 潤平(高 洲) | 野谷 悠真(焼将陽) | 国持 葵香(西焼津) |
| ■一般初段■ | 横山 恵実(健空手) | ■少年弐段■ | 高田 真力(浜将陽) | 大阪 由衣(浜将陽) |
| ■一般弐段■ | 春寄 明子(清 水) | 平成 27 年 8 月 23 日実施 於 静岡県武道館 | | |

■第 16 回 JKS 静岡県中部地区空手道選手権大会■



平成 27 年 9 月 13 日(日)静岡市北部体育館にて標記大会が開催された。朝方から降っていた雨も昼過ぎには上がり、いささか湿度の高い中、館内では熱気に溢れた戦いが行われた。型・組手とも、約 320 名のエントリーがあり、また凜空塾をはじめとする新興の支部の活躍もあり、大会は大変な盛り上がりを見せた。今回、型では、採点方式となる決戦に入る前、事前に選抜された選手による試技を行い、審判間で点数を評価して共通認識を持った上で採点を行った為、ばらつきの少ない妥当な評点が実施されたように思う。昼には増田誠二師(西焼津支部)の解説のもと、車椅子の型が披露された。演武を披露した方には実際に日常生活において車椅子を必要とする方もいたが、車椅子空手を行うことで身体も動くようになり、海外の大会にも参加し、総本部の香川師範からも称賛されたという話も紹介された。午後の組手では戸外でのハレを反映するかのような激戦が行われた。ただ、初めての自由組手を経験する小学 3 年生には"極め"が難しく、いたずらに押し合い、つつき合う光景も見受けられた。しかし、体格差を物ともせず、大きな相手に勇敢に立ち向かい、勝利を得る子供の姿もあり、感動を呼んだ。しかし気になった事もあった。女子の試合で、試合中にも拘らず、笑みをこぼしながら型を打ったり、組手をする者がいたことだ。試合を楽しむ気構えは必要かも知れない。しかし、真剣勝負の最中に笑みが出るだろうか。実力伯仲し、宿敵に会えたと思わず漏れる一瞬の笑みなら理解も出来るが…。子供たちからも「なぜ、笑っているの?」という声が聞こえた。空手の試合は老若男女が一同に会して行われることが多い。年長者は見本となるべく振舞って欲しい。ともあれ、当日最後の組手試合、一般有段者男子の実力者・長島祐樹選手と、若手の挑戦者・山本洋輝選手の決勝戦は誠に真剣であり、試合運びも実に好対照な戦いを見せた。時折、挑発的とも思える仕草を見せ、変幻自在な姿勢から技を繰り出す山本選手。それに対し、決して身体の軸を崩さず緩急自在な長島選手。互いにポイントを奪い合いながらも、試合巧者の長島選手が勝利を収めた。2020 年のオリンピックの競技種目に空手が選ばれるか否かの状況下、競技場やエンブレムの問題で日本への信頼が揺らいでいる事は非常に残念ではあるが、空手が選ばれ、本大会に臨んだ選手達の未来に向けて希望が灯されることを切に願う。(レポート：静岡北支部 遠山貴志)

■第 15 回将陽館空手道大会■



平成 27 年 9 月 27 日(日)に菊川南陵高校にて第 15 回将陽館空手道大会が開催され、県内各地で活躍する 4 道場のメンバーが日頃の厳しい稽古の成果を競い合いました。将陽館といえば、全国大会の表彰者も多く在籍し、常に上位入賞を果たしている県内でも屈指の強豪道場でもあります。予想通り、白熱した試合が展開され、毎回、確実に技術力の向上が見受けられました。その選手層は厚く、幼年から一般まで、個人戦はもとより、形・組手の団体戦及び親子団体まで、随所に高い技術力を見る事ができました。毎年、この大会を取材していて感じる事があるのですが、親子団体のチームが多いことが印象的です。特に、お母さん空手家が増えている事に気が付きました。少年部とは、また違った楽しみ方を見つけている女性も多く、皆さん試合を楽しんでいました。親子で同じ日に、同じ時間に、同じ道場で、同じ先生から、同じ指導を受け、同じコートで、同じ形を同時に演武する。こんな競技が他にあるのでしょうか?本大会の親子団体では、夏に開催された全国大会を制した、高橋ファミリー(浜松将陽館)もエントリー、キレと高さのある豪快なウンスーで、圧巻ともいえる演武を披露しました。本大会は一般男子組手の決勝をもって終了となりましたが、大会スタッフとして南陵高校空手道部の皆さんが本大会をサポートしていただきました。最後までスムーズに滞りなく終了する事ができました。ありがとうございました。(レポート：広報部 秋山 高士)